

全社および事業所・部門ごとのPDCAを回し、  
全員参加の環境経営を推進しています。

環境マネジメントシステムは、グローバルな環境経営を推進するリコーグループにとって、重要なツールのひとつです。事業所・部門ごとに全員参加の環境経営を推進するとともに、マネジメントレビュー\*や環境会計によって各事業所・部門の環境行動計画の達成状況を確認し、グループ全体および事業所・部門ごとのPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを回しています。また、全社の戦略的目標管理制度に「環境」の項目を取り入れ、部門別の業績評価を行っています。今後は製品別の事業プロセスにEMSを組み込んで環境経営を推進していきます。

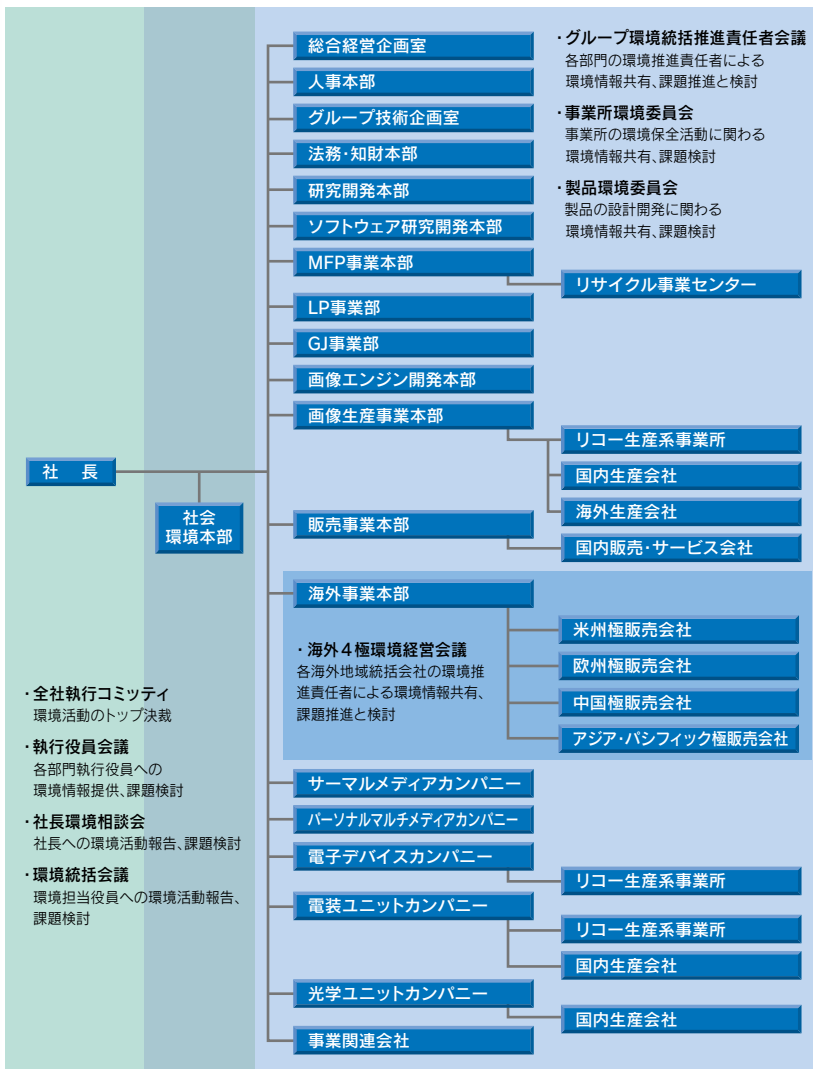
\* 経営層による環境マネジメントシステムの適切性・有効性の見直し。

### ISO14001の認証取得

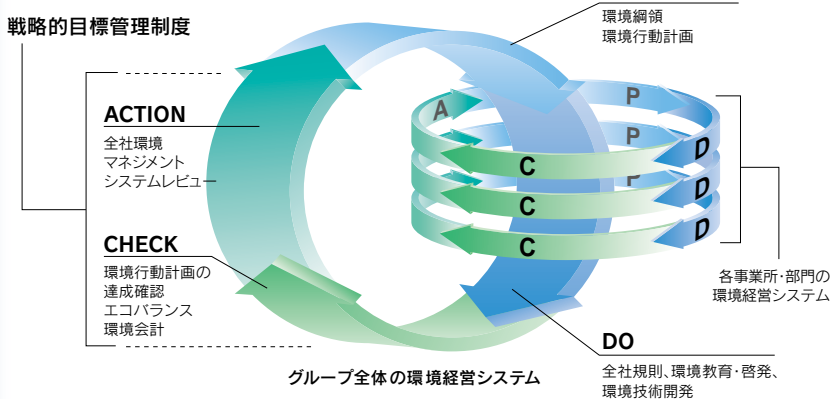
リコーグループは、環境経営の実現に向けて、積極的に環境マネジメントシステムの構築を推進してきました。1995年にリコー御殿場事業所がISO/DIS14001の認証を取得したのをはじめ、2000年3月には世界の主要生産拠点すべてが認証を取得、2001年には国内販売グループで一括認証を取得し、海外の販売会社でも、積極的に認証を取得しています。新たにリコーグループに加わった会社やサイトは3年以内にISO14001認証を取得するという基準を設定しています。

※ ISO14001認証取得状況については、ホームページをご覧ください。  
<http://www.ricoh.co.jp/ecology/system/iso.html>

リコーグループ環境経営システム組織図



リコーグループの環境マネジメントシステム



## 全員参加の活動

リコーグループは「全員参加」を基本に、環境経営のレベルアップに取り組んでいます。「全員参加」とは、研究開発から製品設計、調達、製造、輸送、販売、保守・サービス、回収・リサイクルの各部門の一人ひとりが、自分の業務に環境の視点を取り入れ活動することを意味します。これらの活動は、利益創出を追求する「QCD活動\*」と、ほぼイコールになっています。また、活動のレベルアップを図るために、グループ内ベンチマークも随時開催し、ノウハウを水平展開しています。

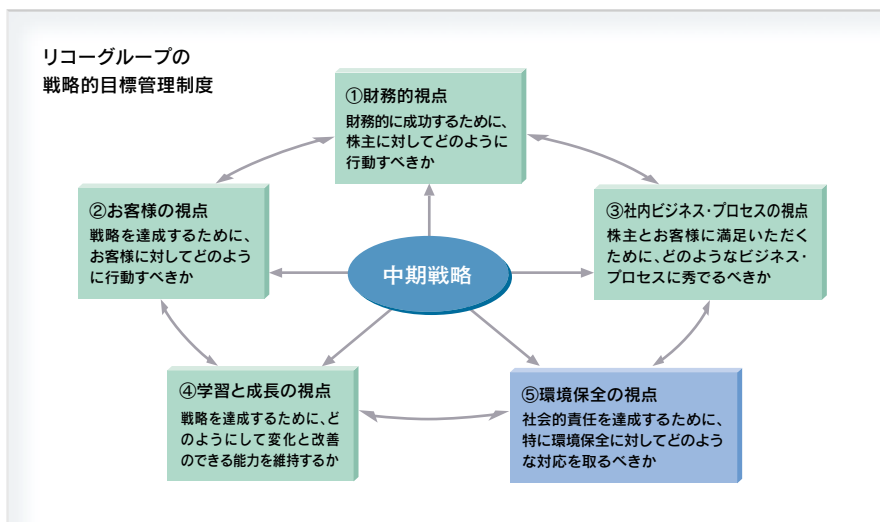
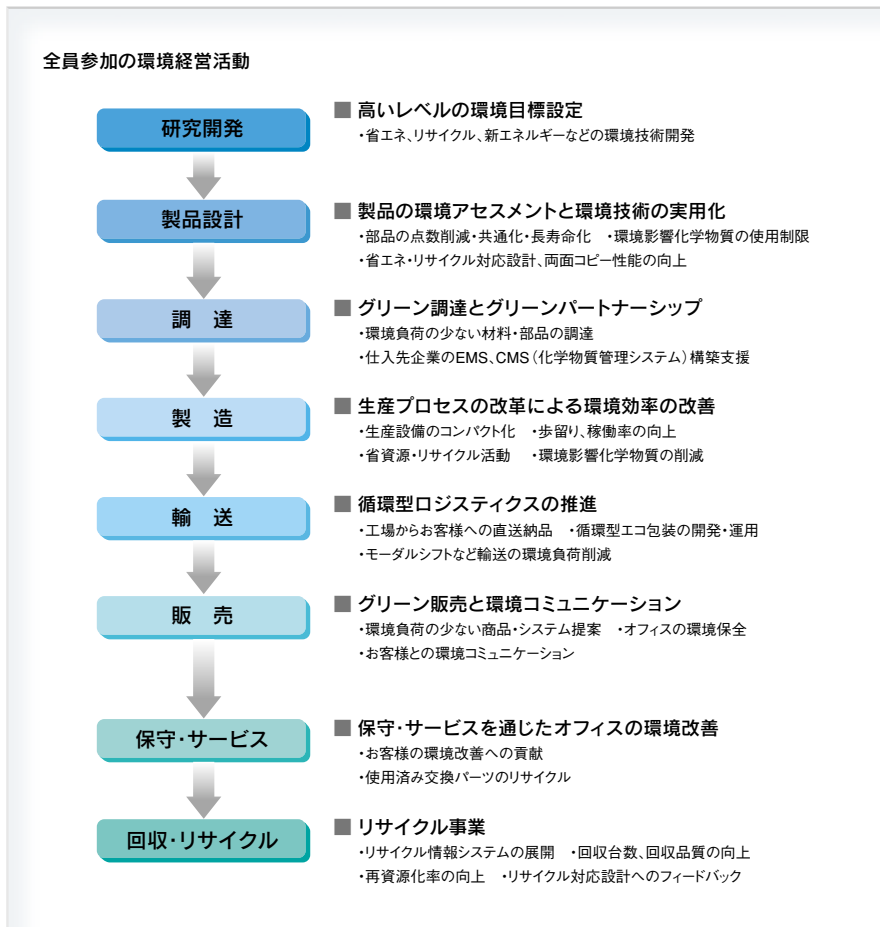
\* 品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の管理改善活動。

## 戦略的目標管理制度

リコーグループでは、環境活動の評価基準を明確にし、部門の業績評価に結びつける仕組みとして、1999年から「戦略的目標管理制度」を導入しています。これは、1990年代にアメリカで開発された「バランスト・スコアカード」の4つの視点に「環境保全」の視点を加えた戦略的な目標管理の手法です。グローバルな環境経営を実現するために、リコーグループ全体に「戦略的目標管理制度」の展開を進めています。

## 販売会社の環境経営推進

日本、欧州、アジア・パシフィック地域の販売会社では環境経営度を自己評価するための独自プログラムをそれぞれ開発し、環境経営のPDCAサイクルを回しています。欧州では2002年度より「サステナビリティ自己評価プログラム (SSAP\*)」を実施しています。このプログラムの評価カテゴリーには、「回収・リサイクル」「省エネ・省資源」といった環境側面だけでなく、「社会的責任」も含まれています。アジア・パシフィック極でも2002年度より「環境経営評価」を実施しています。日本の販売グループでも、2003年度より「環境経営進捗度評価システム」による評価を開始しました。



環境・経済・プロセスの3つの視点で活動を評価し、さらに評価結果に基づいて「環境経営進捗度表彰」を行うことで、販売会社全体の環境経営のレベルアップにつなげています。

\* Sustainability Self Assessment Programの略  
詳細は<http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/pdf2004/21-22.pdf>